

「地域づくり活動補助金」は、地域の皆さんの柔軟な発想による地域の活性化や課題解決につながる活動、また、それに取り組むNPO法人やボランティア団体、自治組織などの組織づくりを支援するための補助金です。本年度補助金を活用した3団体の活動を紹介します。

## ポンと一打ち!紫波の歴史を講談で伝える★紫凜会

張り扇で釈台という机を叩きながら、独特の語り口調で歴史などの話をする「講談」。紫凜会(岡村日出子代表)は「講談を通じて町の歴史や人物、文化を多くの人に分かりやすく伝えたい」という思いで活動を始めました。

9月10日、第1回紫波歴史講談会が開催された日誌6区公民館「鈴の音」には、約50人が詰めかけました。出囃子に乗せて最初に登壇したのは和葉紫さん。昔話と講談をミックスしたお話で口火を切り、その後メンバー6人が堂々とした「語り」を披露しました。第2回講談会は11月3日、情報交流館1階市民交流ステージを舞台に開催され、講談目当ての方々に加え、情報交流館や図書館を利用する人たちが興味深く聞き入っている姿も見受けられました。また、この日は、メンバーが練習に通っていた奥州衣川青凜会から講談師2人を招き、紫凜会のメンバーとの共演を果たしました。



月に2回ほど、平日の夜に行われる練習会。  
受験勉強さながらの真剣さが本番の笑顔を生み出します

年が明けた1月14日に開催された第3回新春講談会は、会場の「鈴の音」が満員となるほどの盛況ぶりでした。安定した講談を披露する7人のメンバーに加え、この日初登壇のむらさき並之丞さんは、初の男性会員。ユーモアと迫力ある「語り」で聴衆を引き込んでいました。

普段の練習会では、それぞれの演目を披露しながら、読み方、語り口調、張り扇を打つタイミングをアドバイスし合い、自分なりの講談スタイルを身に付けていくとのこと。それでも本番、釈台の前に座れば緊張し、頭の中が真っ白になることもあるそうですが、そんなときは張り扇を使ってリズムをつかみ、自分の世界に入ります。その感覚は、演者にしか味わうことのできない醍醐味といえます。

「大道芸人のように町のあちこちで寄席のようなものが開かれるようになればいいですね」と語るのは恋紫さん。今後は、出前講談なども取り入れながら子どもたちが町の歴史を伝える「子ども講談」の開催を目標に、仲間を増やして活動の輪を広げていく意気込みです。



張り扇をポンと一打ち。  
独特の語り口調で観客を引き込みます



紫凜会メンバーの皆さん

## 城山公園の四季の彩りを楽しむ★ 城山桜まつり実行委員会

「桜の名所として知られる城山公園を、四季を通じて豊かな自然を満喫し楽しめる場所として広めたい」という思いで周辺地区の住民が立ち上げた城山桜まつり実行委員会(岡村幸男委員長)は、城山公園の魅力探求と発信に取り組みました。

特に思い入れの強かった桜まつりイベントは、3年ぶりの開催となりました。4月22、23日の両日、特設会場では伝統芸能や音楽演奏などの舞台公演、餅振る舞いが行われ、テントが立ち並んだフード&クラフト市もたくさんの人でにぎわいを見せました。一方、桜の開花時期に発生するのが周辺道路の交通渋滞問題。実行委員会では、警察や行政、周辺住民の協力を得て、周辺道路を2日間一方通行にし、駐車場を整備するなど、渋滞緩和対策も講じました。さらに町観光交流協会と連携して、紫波中央駅～日誌商店街～城山公園間のシャトルバスを運行。紫波町観光案内人「しゃべーる」のスタッフによる城山の歴史などの生ガイドも入り、バスの中でのおもてなしも好評でした。

8月5日には、四季の活用第2弾となる「城山夏フェス」を開催。9組のアーティストが集結し、青空と深緑の中に設けられたステージで、自然と溶け込む癒しの歌や自然から浮き出るような迫力の演奏を繰り広げました。

秋の城山を楽しもうと、11月4日には歴史散策会を開催。実行委員会のメンバーである石幡信さんが案内役となり、参加者31人が高水寺城跡を散策。城山の紅葉と歴史的な魅力を堪能しました。

実行委員会は評価や反省を整理して次につなげていくため、イベントの開催前後に話し合いの場を設けることを惜しみません。話し合いではいつも城山への熱い思いと、関わってくださる皆さんへの感謝の気持ちが語られています。四季を通じた城山の楽しみ方は、まだまだアイデアが尽きないようです。



桜まつりを盛り上げた地元古館地区の  
「二日町こども鹿踊り」



町の風景を背に演奏した夏フェスの出演者



散策会では、歴史の面影に  
思いを馳せました



交通渋滞対策も住民のボランティアで  
行われました

# 楽しく体を動かしながら可能性を引き出す MVCトレーニングのすすめ★空色のたね

「子どもたちの発達・成長・可能性を引き出したい」。空色のたね(鎌田貴美子代表)は、発達が気になる子どもや障がいがある子どもたちの家庭や学校、地域での生活が楽しく過ごしやすいものであってほしいと、誰でもできるM(心:メンタル)V(脳:ビジョン)C(体幹:コーディネーション)トレーニング体験会を地域に広める活動を行っています。

体験会では、柔らかい棒を使ったチャンバラ遊びや20枚以上のカードを使った記憶トレーニングなどが行われ、広い運動場に子どもたちの歓声が上がります。また、参加者たちは親子で一緒に体を動かしたり、道具を使って自由に動き回る子どもたちの様子を見たりする中で、子どもたちの個性だけでなく、自分の感情の中にも気づきがあったようです。鎌田代表は「子どもの可能性を引き出すためには、大人たちの見方を変えること、気付くことが大事です」と思いを話します。

「できない、やらないと言う子どもを頭ごなしに叱るのではなく、何か原因があるからだと思えるように変わるかもしれない」と話す親御さんもおり、体験会は子どもたちの体のトレーニングだけではなく、親の視野も広げ、ポジティブな心を育てているようです。



柔らかい棒を剣に見立てたチャンバラ遊び



記憶トレーニングで右脳を活性化させます

大人を対象にしたセミナーは9月16日、情報交流館を会場に行われ、9人が受講しました。講師を務めたトータルビジョントレーニング協会の千葉敦子さんは「黒板の字が見えにくい子、字を書くことが苦手な子は、視力ではなく見え方のバランスが悪く、脳や体の反応に影響が出ていることも考えられます。眼球を動かすトレーニングによって適切な目の使い方を身に付けると、脳の情報処理能力も上がり、理解力も増します」と説明。参加者は子どもたちと同じメニューに挑戦してトレーニングの楽しさを体験したほか、指導者向けの専門的なプログラムも学びました。町



楽しさを伝えるために子どもと同じトレーニングを体験



シートを使って視覚機能をチェックします

内の小学校でスクールヘルパーを務める平沼純子さんは「学校でも家庭でも取り入れることができるトレーニングだと思うので、指導できる人が増えていけばいいですね」と参加した感想を話しました。

子ども同士がつながり、大人たちの意識が少しずつ変わっていくMVCトレーニング。近くの公民館や保育施設、小学校などでトレーニング体験会が開催される際は、皆さんも参加してみませんか。



## 「想いをかたちに」平成30年度の地域づくり活動補助金事業提案を募集します

来年度の事業提案を受け付けます。提案を検討する団体はお早めにご相談ください。\*この補助金は平成30年度予算の成立が前提です。今後、内容などが変更になることもありますのでご了承ください。

### ◆補助金の概要

#### (1)対象団体

特定非営利活動法人または営利を目的としない任意の市民活動団体で、次の5点全てに該当する団体

- ①5人以上で構成されている団体
- ②団体の所在地が町内にあり、主として町内で公益事業を行う団体
- ③事業計画および収支を示し、計画的に事業を実施する団体
- ④特定の宗教、政治活動および選挙活動を目的としない団体
- ⑤公序良俗に反しない団体

#### (2)補助金の内容

- ①スタートアップ補助金 団体の組織づくりや研修などに要する費用(上限10万円)
- ②ステップアップ補助金 活動の拡充や新規事業に取り組むための費用(上限30万円)

◆提案受付期間 2月5日(月)～3月5日(月)

◆公開事業提案会 日時:3月25日(日) 午前10時～  
会場:情報交流館 1階 市民交流ステージ

#### ◆問合せ(相談、提案書の取り寄せ)

- ・企画課 協働広報室 ☎672-2111 内線2320
- ・ゆいっとサロン ☎676-2468

(情報交流館1階で火・木・土曜日 午後1時～6時に開設)

**公開事業提案会の  
公募審査員を2人  
募集しています。  
3月5日(月)までに  
企画課協働広報室へ  
申し込みください。**